

(二) 先史時代の山科

山科では中臣遺跡などの調査により、後期旧石器時代から、人の営みがあったことが分かっています。ではそれ以前の山科はどんなところだったのでしょうか。

更新世と呼ばれる百八十万年前から一万年前にかけては、氷期と間氷期が激しく繰り返す「氷河期」の時代がありました。その結果、海水面が変動することにより、海岸線の位置も変動しています。

京都市は阪神・淡路大震災を機に、地震調査研究のために、反射法地震探査やボーリング探査など

の地下構造調査を行いました。その結果、約九〇万年前から、一〇万年に一回程度、何回も大阪湾の海水が、京都盆地を経て山科盆地に侵入し、山科が海であった時代について詳しく分かるようになりました。

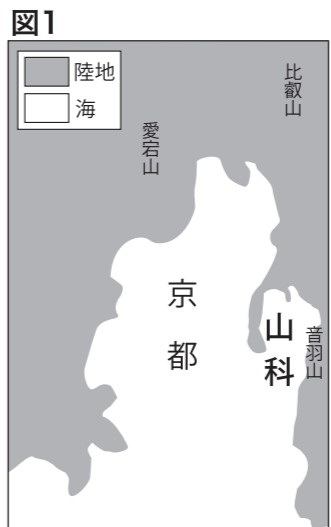


図1は、更新世中期における大阪東部〜京都付近の古地理図をイラスト化したものです。山科盆地や京都盆地が海となっており、音羽山や比叡山などの山の部分だけが陸地であった様子がわかります。表1を見ていただくと、四回にわたって山科盆地が海となっていた時代があったことがわかります。その後、氷河期も終わり、長い年月をかけて現在の山科盆地の形状ができていきました。

表2をご覧ください。山科盆地は南北方向が南側に、東西方向は西側に傾いていることがわかります。これは山科川の流れによる扇状地が、東から西、北から南へ向かって発達したためと考えられています。川あるところに文明が育

地質年代	堆積年代		地質単元
	沖積層	海成粘土層(海水侵入時期)	
第四紀	更新世	縄文時代	段丘構成層
	新世	1万年前	
第三紀	更新世	後期旧石器時代	群
	新世	62万年前 71万年前 78万年前 86万年前	
第三紀	新世	180万年前	

本稿作成にあたり、京都大学大学院理学研究科の竹村恵二教授にご指導を賜ったことをここに御礼申し上げます。

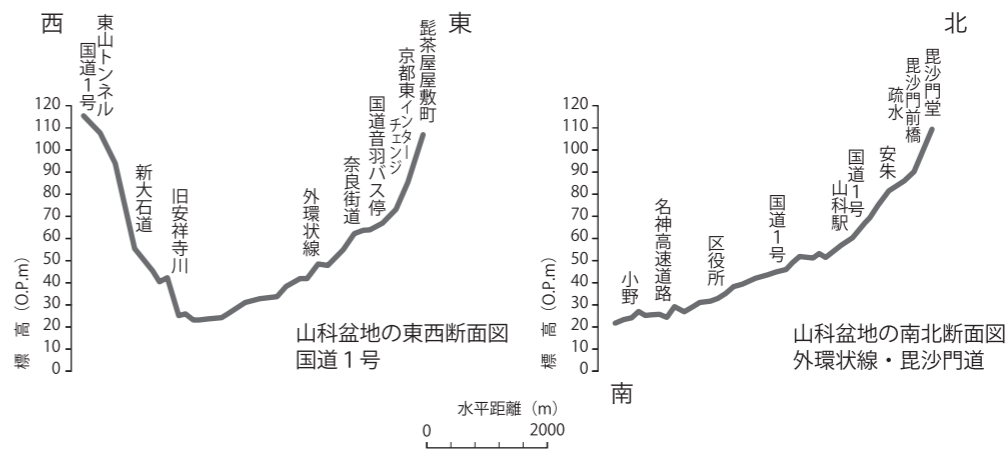


表2 山科盆地の地表面(東西と南北)

つといいますが、山科も古くから川が存在していたため、古代より人の営みがあったのでしよう。

107 中臣遺跡

一九六九(昭和四四)年、洛東高校一年生が弥生時代の土器破片を見付けたことがきっかけとなり、以後八五回にわたる中臣遺跡の発掘調査が行われました。

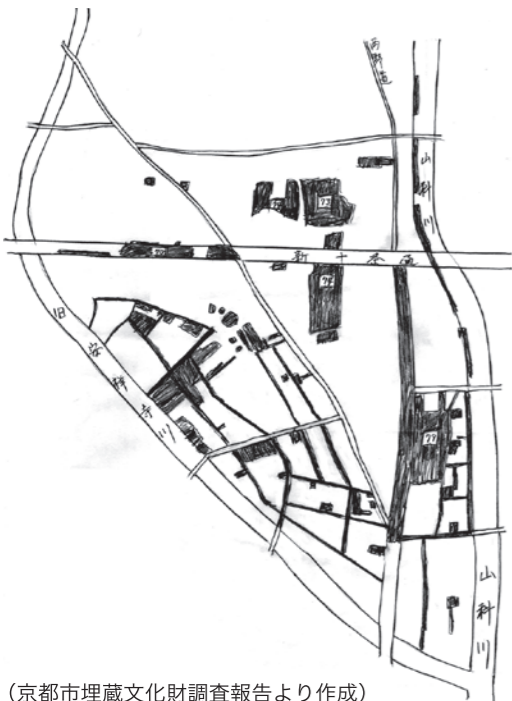


後期旧石器時代(約2万年前)のナイフ形石器がここで発見されました。(勤修寺第一市営住宅)京都市内では一番古いころの遺物で、これほどまとまって発見されたのはこの付近だけです。

その結果、古代には一大集落が存在したことなどを示す大変貴重な遺構遺物が発掘されました。左図は発掘調査場所を示したものです。一〇万m以上のうち、一〇



縄文時代の墓 煮炊きに使っていた土器を棺に使用
弥生時代の竪穴住居 古墳時代の横穴式石室



(京都市埋蔵文化財調査報告より作成)

%程度しか発掘されていません。縄文時代後期以前については、数箇所遺物を包含する土層や、貴重な遺物が見つかっています。弥生時代中期の墓、方形周溝墓や、弥生時代

108 芝町遺跡 追分の三叉路から奈良街道沿いに南に進み一筋目を東に入ると、



勤修小学校西門の前には、中臣遺跡の碑が建っていますが、勤修小学校の発掘調査は行われていません。



昔から神聖な場所として守られてきました。縄文時代の遺物が発見されていますが、遺構は発掘されていません。

北側に「諸羽神社・若宮八幡宮御旅所」があります。この地域の古い遺跡は「芝町遺

跡」で、京都市の『遺跡地図台帳』によれば、四ノ宮(奈良野町・芝畑町)・音羽(珍事町・平林町)・小山(神無森町)にかけて遺物(縄文・弥生・奈良)が発掘されています。その跡に、二社の「御旅所」が設けられたと考えられます。この御旅所の祭祀が、古代信仰の原始的形態とも言える磐境(いわさか)といわくを中心としたものであるともいわれ、大事な意味をもっています。一四七七年には、「山科七郷」としてこの地域の神無森に郷中(関所)を設けています。